資料：高知ダルクによるゲストスピーチ逐語録
― 高知リハビリテーション専門職大学「更生保護制度論」(2024年8月1日) ―

加藤　誠之・高知ダルクの皆さん

高知大学学術研究報告　第73巻
抜刷（2024）

資料：高知ダルクによるゲストスピーチ逐語録

―高知リハビリテーション専門職大学「更生保護制度論」（2024 年 8 月 1 日）―

加藤　誠之[1]・高知ダルクの皆さん[2]
高知大学人文社会科学系教育学部門[1]・高知ダルク[2]

Document: A Literal Record of Guest Speeches by the Members of Kochi DARC in “System of Probation and Parole” (1st August 2024 at Kochi Professional University of Rehabilitation)

Masayuki Kato[1] and Members of Kochi DARC[2]

[1] *Kochi University Research and Education Faculty Humanities and Social Science Cluster Education Unit*
[2] *Kochi DARC (Drug Addiction Rehabilitation Center)*

Abstract: We had guest speeches by the members of Kochi DARC (Drug Addiction Rehabilitation Center) in “System of Probation and Parole“(1st August 2024 at Kochi Professional University of Rehabilitation). This document is the literal record of these guest speeches.

キーワード：自助グループ，薬物依存，実体験
Keywords: self-help group, drug addiction, actual experience

第 1 章　はじめに

筆者（加藤）は 2024 年 8 月 1 日(木)に開講された高知リハビリテーション専門職大学「更生保護制度論」で薬物乱用経験者の自助グループ高知ダルク（DARC，Drug Addiction Rehabilitation Center）のメンバーをお招きし，ゲストスピーチを行っていただいた．本稿はこのゲストスピーチの逐語録である．聞き取れなかった個所は「…（中略）…」とした．

第 2 章　高知ダルクのメンバーによる高知リハビリテーション専門職大学「更生保護制度論」（2024 年 8 月 1 日）でのゲストスピーチ

第 1 節　高知ダルク代表　宮本　容子氏の挨拶

高知ダルクの宮本と申します．こんにちは．暑い中ありがとうございます．高知ダルクはアルコール，薬物，ギャンブルはいないんですけど，アルコールとか薬物とかを使って，疲れ果ててきた人たちが再生していく場所だと思っています．皆さんけっこうぼろぼろでやって来ますので，私自身も，例えばおしっこはどうやって出したらいいんだ，おしっこしたいのは分かるんだけど，どうやればおしっこができるのか分からないとか，あっちが痛い，整形もそうですし，皮膚もそうですし，もちろん精神もかなりやられてる状態で来ます．で，体と心を整えていって，社会に出るまでの間みんなで一緒に過ごして，助け合いながら社会に出ることを目標としてます．社会参加っていいと思ってて，ともかく社会に参加して，みんなの持っている能力を発揮してもらえればなって思ってます．

高知ダルクはシェアハウスみたいなナイトが一つと，それからグループホームが一つと，それからデイケア，日中の生活訓練をするところと，それからきょうから始まるんですけど，B 型作業所としてのカフェっていうものがあります．今から欲しいのは，グループホームがあと 1 個あれば，ダルクに入寮してきて，それからいろんなことを治したりとか，自分自身に戻ったりとかっていう時間を過ごしながら，かけながら，社会に出ていくまでの一連のコースができるのかなって思います．ただ，全然そこで，途中で私はこっち行きたい，あっち行きたいっていうのも全然ありなので．ただ一つ，そういう道をつくっておけばいいのかなって，選ぶ選択肢の中に一つできればいいのかなって思います．みんなでなんだかんだ言いながら協力し合っていろんなことを学んで，成長していくっていう場所であればいいのかなって思います．

ちなみに，チャメっていうのは韓国語で姉妹です．ナルっていうのは同じく韓国語で，渡し場っていう意味です．だから依存症の世界から社会に出ていくっていう，渡し場であればいいかなって思います．ちょうど韓国に行ってたときに，通訳の方が名前を考えてくれて，ナルはどうでしょうみたいな感じで，ナル，私はいいですねっていうことで，ナルって決まりました．そんな場所であればいいのかなって思います．ルールは，いる人たちで作っていけばいいと思うし，自分たちが伸び伸びとできる場所であってほしいなって思います．仲間の話を聞いてもらえればよいかなと思います．以上です．

第 2 節　サチさんのスピーチ

皆さん初めまして，アルコール依存症のサチと申します．私が最初にアルコール依存症になったのは，アルコール依存症と処方薬依存症ですね．処方薬というのは，心療内科で処方されるお薬のことです．私の家庭はちょっと複雑で，私が 15 歳のときに母が自殺しました．第一発見者は私でした．私はその 15 歳から大体 18 歳くらいかな，までの記憶がほとんどありません．そのときに，学

校に第 1 報が入ったときに，母が死亡したという，病院に運ばれてからですね．母は辛うじて蘇生はされたんですけども脳死状態で助かる見込みがないであろうと．呼吸が停止するまでの間，病院に入院してたんですけど，母がもう死にそうだと学校に第 1 報が入った時点で先生から「精神科におまえは行け」と言われました．なぜかというと「親が自殺した子は，子も必ず自殺する」ってそのときに言われたからです．そのときに，このタイミングでその言葉を言うのはちょっと違うんじゃないかって私は思いました．でも私は PTSD 持ちでトラウマ持ちなんですけど，何度も部屋のドアを開けるとそこには母がぶら下がってるっていうフラッシュバックをしてしまうんですね．ドアを開けると怖いものがあるって．それから逃げたくて 18 歳のとき，精神科にかかって薬をもらいました．薬を飲むとすごくふわふわして，いい気持ちになるんですよ．

私はすぐオーバードーズというものを覚えました．薬を所定の量ではなくて大量に飲むことです．居酒屋さんで当時アルバイトをしてたんですけど，居酒屋さんでアルバイトをして，その帰り道に必ずコンビニエンスストアに寄って，焼酎を 1 本買うんです．そのコンビニエンスストアの店員さん，当時店長さんだった方ですね，もうおなじみになっていて「きょうはどの焼酎を買っていく？」って勧めてくださるんですよ．これこれ，おいしい，女の子にお薦めなのはこれとか．これは口当たりがすごくいいとか．私は焼酎を買って，家で焼酎の水割りを作って，それで処方薬を飲んでいました．すとんと寝れるんですよね，お酒と処方薬って．私は当時，生きることが本当につらくて，死んでしまいたいと毎日思ってました．眠ってる時間だけが唯一幸せな時間でした．一刻も早く眠りたくて，私はアルコールを使いました．処方薬も同じです．そこから毎晩お酒を飲んで，居酒屋さんで働けなくなって，居酒屋さんを辞めて，とうとう精神科にも行けなくなりました．これじゃ駄目だなと，心機一転，私は就職をして資格を取ろうと思いました．それが鍼灸あん摩です．整体もやりました．働きながらお金をためて，海外の大学に行って，国家資格が欲しかったんですね．国際国家資格っていうのがあって，それが欲しかったんです．私のアルコール依存症はそこでいったん落ち着きました．

2 度目のアルコール依存症になったときは結婚したときのことです．私の夫は結婚するまではとても優しくて，笑うと笑顔がひまわりみたいな人で，本当に優しくて，この人と一緒にいたら私絶対幸せになれるわって思ってました．でも，結婚して彼は変わりました．最初は大きな声で怒鳴る．舌打ちをする．足で物を蹴り倒す．壁を手のひらでたたく．どんどんモラハラ，DV になるのはすぐでした．最初に顔を殴られたときの痛みは一生忘れません．毎日殴られて，でも家のこともきちんとしなくちゃいけなくて，私は当時正社員で働いていたので，会社に正社員が一人しかいなかったんです．それが私でした．正社員なんだから始業から終業まで，朝から晩まで 12 時間くらい会社にいなくちゃいけなかったんですよね．それがまかりとおるブラック企業だったんですけど，休みの日も休めない．会社がどうしても気になってしまう．休みの日にも会社に行って，どうしても病室をのぞいてしまう．結婚して夫のおしゅうとめさんのお母さん，おばあちゃんになるかな，おばあちゃんが認知症でぼけちゃって，徘徊をするからそれのお世話もしなくちゃいけない．私，当時実家の父が末期がんでした．末期がんの父の介護もしなくちゃいけない．私はそこでぺしゃんこにつぶれてしまいました．毎日殴られているうちに自分の存在価値っていうのが分からなくなりました．

ある日家に帰ったら，夫が性風俗の女性を家に呼んで性行為をしてる場面に遭遇しました．夫は私に向かって「30 分延長をかけたから，30 分どこかで時間をつぶしてきて」って言いました．そのころには感覚がまひしていたので，私は 30 分間近くのコンビニエンスストアで店内をうろうろして，そこでお酒のコーナーできょうはどれを飲もうかなとずっと考えてました．30 分たった後，マンションの階段を登っていると，さっきまで夫と性行為をしていた風俗嬢の方とすれ違いました．私はその方に「夫がお世話になりました」ってごあいさつをしました．ある日，思い出したんです．私

の父が若かったころ，父は帯屋町に飲みに出掛けていて，友人数人とどんちゃん騒ぎをして，完全な酔っぱらいでアーケードを歩いていました．そうすると，アーケードの 2 階のマージャン荘が，窓ガラスが椅子に破られて下に落ちてきたんです．原因はお客さん同士の喧嘩でした．お客さんが怒って窓の外に放り投げた椅子が窓ガラスを破って，それが父の体の上に全部下りてきたんです．ガラスのシャワーです．父は血だらけになりました．けれども，酔っ払っているから痛くなかったんです．父はこの話を小さいころから私に繰り返し聞かせてくれました．私は正直お酒が得意ではなかったんですね．そんなに飲みたいとも思わないし，お酒をおいしいと思ったこともありません．酔っ払って殴られたら痛くないのかなと思って，最初はほんの数パーセントの缶酎ハイから手を出しました．

そのときの私は，高校生のときのアルコール依存症の記憶っていうものが全くなかったんです．PTSD によって記憶にふたがされて，その記憶のふたが開いたのが先月のことです．私は 2 回アルコール依存症になったことがあるって．当時は，私はアルコール依存症になったことがないって思ってたんですね．その数パーセントの缶酎ハイから始まって，飲むとふわふわ気持ちいいんですよね．そのときに叩かれてもそれほど痛くなかったんですよ．そこから坂道を転がり落ちるようにどんどん度数の高いものを飲み始めました．最終的には，1 日にワイン 3 本とウイスキー2 本，ボトルで計 5 本を一気飲みして，ブラックアウトを起こすようになりました．寝てる間に殴られたら絶対痛くないからです．でも，自分のお酒の飲み方をおかしいっていうのを，私は全く気付きませんでした．

私の周りにはお酒好きな人がいて，お酒飲まない人は信用できないって，そう言われたことがあるぐらいだったからです．それぐらい酒飲みさんが多かったんですね．私もこれぐらい飲めて当然だって思ってたんです．夫はいつの間にか働かなくなりました．私のお給料だけで食べていかなくちゃいけなくなるようになりました．私の体はお酒と夫の暴力でぼろぼろになり，会社を退職せざるを得なくなり，1 カ月寝込んだんですね．その 1 カ月間，夫は私の分の食事を一切作ってくれませんでした．1 カ月間，断食です．アルコールだけは欲しかったから，私はこっそり隠れて，自分の残った貯金でお酒だけを買って飲んでましたね．食べ物がもう受け付けなくなっていたんです．寝込んでる私の隣で，夫は 2 人前のご飯を食べるんです．私の分の食事はありませんでした．

そうするとどういうことが起きるかというと，止まらない下痢が始まるんです．アルコールは水分を体の外に出してしまいます．私は結局，最終的には 1 カ月間の断食の末，カリウム不足で体が全く動かなくなって胸をけり上げられました．心肺停止になりました．病院に運び込まれて蘇生されて，もうあの人とは一緒に暮らしてはいけないと思ってシェルターに逃げました．女性シェルターです．そこで私は強制的に 2 カ月間アルコールを断つ生活をしたんですけど，そこで人生初めて離脱症状が出ました．冷や汗が止まらない，動悸が止まらない，眠れない，幻聴が聞こえてくる．シェルターから出て 1 日目にしたことは一人暮らしがやっとできるっていう安心感で，お祝いにワインを 1 本だけ開けようと思ってワインを 1 本だけ開けたんです．それが始まりの終わりでした．

1 日目に 1 本だったものが，1 週間目には 3 本になっていました．私はまたワインを 3 本とウイスキーを 2 本開けるようになりました．1 カ月間家から出ずに夜中にそっとコンビニに行って，お酒だけ買って帰る．また物を食べない生活が始まって，最終的には希死念慮が止まらなくなってうつ状態に陥って，私おかしいってそのときに思ったんですね．私の飲み方はやっぱりおかしいって．私のことを唯一見捨てなかった友達に助けてほしいって SOS を出したんです．病院に連れていってほしいって．私，お酒の飲み方止まらないって．彼女は「あんた，アル中やもんね」って自然に口に出して言ってくれたんです．病院に行って即入院が決まりました．先生はそのときにこう言ってくださいました．「アルコール依存症は回復します」。私はばかだから治るんだって思ったんですよ．でも，この病気は治りません．一生付き合っていくしかないんです．アルコール依存症はサッカー

ボールを坂道の上から足で止めているような病気です．下からじゃないんです．上から止めている病気です．足を離してしまったらまた転がり落ちてしまいます．一生付き合っていくしかないんです．

お酒をやめて数年後，私はがんになりました．アルコール依存症者のがんの発症率は，健常者の発症率の数十倍といわれています．頭髪を失って，体の臓器を失って，ステロイドの副作用で私はぶくぶくに太りました．結果が今のここに立っている私のこの姿です．お酒は本当に恐ろしいです．付き合い方を誤ったら，すぐに友達から敵になってしまいます．皆さんは絶対に道を誤らないでください．聞いてくださってありがとうございました．

第 3 節　氏名不詳の方のスピーチ

皆さん，初めまして．52 歳と 7 カ月の薬物依存症のおばちゃんです．よろしくお願いします．おばちゃんは 17 歳の高校生のときに覚せい剤を覚えました．高校の夏休み中に，そのころ就職先も決まっていましたが，おばちゃんの家はすごく貧乏で就職先の寮に入って，お給料が出るまでのしのぐ金がないという理由で，キャバクラで年をごまかして勤め始めました．17 歳の幼い体になかなかお客が付かなかったんですが，一人だけ 38 歳の私から見たらいわゆるおっちゃんの客が毎日通ってくれるようになり，いつもスーツでびしっと決めたそのお客にだんだんとほれてしまい，数カ月の間にいわゆる男と女の関係になりました．そのとき，おばちゃんは水商売をやっていても中身は高校生で，いわゆる初体験をそのお客としてしまいましたが，スーツを脱ぐと全身入れ墨．びっくりしましたが，もうそのころにはほれてめろめろになっていたので，怖いことも後のことも全く考えずに男女の関係になったとき，ガラスのパイプと覚せい剤とライターでいわゆるあぶりという方法で初めて使用しました．初めてだったので自分ではうまくいかず，口移しで煙を吸って，これが私と覚せい剤の出会いでした．あぶりでは効き方も弱く，普通の初体験でしたが，その後，その男が極道で売人であることを知ったときには，一緒に住んでいました．一緒に住みだしてからは注射器を使って腕に打ってもらうようになり，毛穴がぷちぷちと開くような，目がぎらぎらするような感覚で，いわゆるキメセクを覚えてしまいました．

その後は転がり落ちるように毎日使うようになり，だらだらと毎日を過ごし，時間にも生活にもただ覚せい剤を打ち続けていたら，学生生活も仕事もどうでもよくなり，その男も最初は自由にさせてくれていたのですが，行動の一部始終をチェックするようになりました．四六時中，一緒に過ごさなければ納得しないようになりました．覚せい剤を配達するときも，パケ詰めするときも，パケっていって小袋に詰めるんですけど，組に取りに行くときも一緒に行動し，少しでも離れる，買い物さえ，一人で行動することを許してくれなくなりました．毎日繰り返し使い，売り，昼夜逆転し，寝るのには大量の睡眠薬を服用し，1 日中覚せい剤を使い，次の日には 1 日中眠り，また目覚めて覚せい剤を使うという生活をしていました．そんな生活が 2 年間続き，私が 19 歳のとき，彼が 40 歳のときに彼が逮捕され，そのころは携帯電話はまだ普及していなくて，家電と，ポケベルと，手帳と，自由を手にしました．残されたもので自分が生活するため，覚せい剤を売るための足掛けとして売人になりました．自分自身も覚せい剤を使い続け，毎日シャブづけで，寂しさとむなしさの連続でした．彼が刑務所から出所する前に，地方にあんな生活は嫌だと逃げました．そのときは覚せい剤を断つつもりで逃げたんですが，新しい恋人や家庭を持っても，何年たっても覚せい剤のあの感覚は忘れられず，また気が付いたら覚せい剤漬けの生活に戻り，使用所持で 34 歳のとき，初めて逮捕されました．刑務所に 3 年半勤め，最初の初犯のときは旦那も親きょうだいも待っていてくれたのですが，1 年もたたずに 2 回目の刑務所に行ったときには，もう何もかもを失っていました．その後，3 回，4 回，5 回と刑務所生活を送り，おばちゃんの 30 代，40 代の大半は刑務所で過ごし

ました．4 回目の刑務所を終えたときには帰るところも何もなくて，今のダルクにつながりました．ここで自分が薬物依存症だという病気で，その病気は治ることのない病気だということを知りました．

薬物依存症は治療法も薬もないのです．毎日，同様の依存症と戦う仲間と過ごし，ミーティングやプログラムをこなし，きょうだけを続け，今は薬物を使わない生活を 7 年間保っています．昔は捕まるのを恐れながら，覚せい剤がやめられず，生きているのか分からないような生活を送っていたけれど，今は草花を見て季節を感じたり，母親との文通を楽しみにしたりして，警察を怖がらずに表を歩くことができるようになりました．

覚せい剤は自分自身，一人ではやめられません．やめたとしても，一度味わってしまうと一生治らない薬物依存症という病に苦しみます．それでもやめたいという気持ちを持って，仲間と分かち合うことによって，回復が可能なことを知りました．10 代からずっと戦ってきたこの経験を皆さんに，苦しかったし，つらかったし，孤独だったときょうは伝えにきました．皆さんは作業療法士っていうのを目指しておられるそうですが，私は刑務所に何回か行ったんですけど，その作業療法士っていう方がいらっしゃったんですよね．体操を教えてくれて，手を 1，2，3，4 とかいって．黒い人と白い人がいたんですけど，先生でね．黒い丁寧な人は，丁寧にこうするとここが良くなるんだ，手を動かすと力が抜けるんだとかいうことを教えてくれるんですけど，白いほうの先生は，ただ，1，2，3，4 っていう感じで教えてくれてたんですけど，皆さんがもし刑務所に行くことがあったら，黒い先生のようになってください．ありがとうございました．

第 4 節　キイラさんのスピーチ

皆さん，こんにちは．アディクトのキイラです．私はこういう講演初めてで，多分みんなともけっこう年が近いと思うんですよ．ちょっと聞きづらいかもなんですけども，自分もまだ高知ダルクにつながってまだ 2 カ月たってなくて．来るきっかけになったのは，成人してから初めて逮捕されて，執行猶予もらって，一応地元が関西なんですけど，逮捕されたのは九州のほうで，九州から四国のほうに来ました．私は覚せい剤依存症なんですけど，15 歳のときに初めてやって，初めてやったときは，お母さんとお父さんの先輩に覚せい剤を教えてもらって，して，薬物は，1 回やったら人間やめる？とかけっこうそういうポスターとか見かけると思うんですけど，私はけっこう真に受けるタイプやから，そういうの見てちょっとびびってたとこあったんですけど，私は 1 回でははまらなくて，2 回目は誘われて「あるからやる？」って言われて，「あるんやったらやるわ」って 2 回目しました．もう 3 回目のときには，やっぱり薬物使ったら，やることっていったらいろいろあると思うけど，男女で使ったらエッチもしてることが多いから何時間も，2 日 3 日エッチしたりとかになるんで，3 回目はもうその人と使うのが嫌で，自分でまた親の知り合いに連絡して，また別の人ともらって．そこから，私は 10 代のときに少年院に 3 回入ってるんですけど．2 回が覚せい剤で，15 で始めて，始めたときはすぐに 3 カ月ぐらいで逮捕されて，2 回目の少年院に行って，そのときは 3 カ月で薬のことが毎日頭から離れやんし，少年院って 1 年ぐらい入るんですけど，取りあえず出たら薬使うって決めてて．ちっちゃいときからちょっと性格があんまり良くなくて，友達もあんまりできんかったから，いろいろ私，年上と絡むことけっこう多くて，年上にけっこうわがまま言ってたから，少年院 2 回目出たときに，自分の性格だけは直して出ようと思って，薬をやめることは全く決めてなくて．そこは反省してやんのと，自分がけっこう短気なとことかあるんで，人のこと考えれるようにとか思って，少年院で 1 年間頑張って，出て，出てすぐに，1 カ月以内にまた再使用したんですけど，半年ぐらいは 1 カ月に 1 回で何とかいけてたんですけど．

私，10 代のとき，今もなんですけど保護観察っていうの付いてて，分かる人と分からない人おる

かもなんですけど．保護観察を受けてて，最初の 3 カ月ぐらいは 2 週間に 1 回，薬物やってるかやってないかの検査と，薬物防止プログラムっていうのを保護観察所でやってるんで，それを受けに行ってたこともあって，その保護観察所のプログラムが終わった日に自分の中で祭りみたいな感じで，終わったその日に行って，2 日ぐらい遊んで，そこからまた薬を抜く生活に戻って，また使うっていうのをやってて．そのときは週 5 日の 1 日 3，4 時間で倉庫内のバイトをしてたんですけど，薬する前から仕事とかちゃんとしたことなかったんで 1 カ月続いたことなかったんですけど，その仕事は薬使いながら半年続いて，自分の中でけっこう自信になったんですけど，その自信も後々なくなるんですけど．18 歳になってからすぐに薬毎日なかったら駄目で，薬のためやったら体も売るし売人と寝るし，それでけっこうはちゃめちゃしてて．薬をしてるときは異性に，自分ではなんもできないから異性にけっこう何でもしてもらってたんですけど，ころころ家も変わるし，そうなったら多分帰る家がないってすごいストレスになるんですよね．ストレスになって，やっぱり帰る家もないし，でも薬はしたいみたいな感じで，18 歳の夏に 3 回目の逮捕されて，そのときはずっと大阪の，関西の女子少年院に 2 回行ったんですけど，3 回目は四国の女子少年院に入って．そこでまず自分がけっこう不安をすごい感じるようになってるのに気付いていらいらして先生に当たって，調査，罰則受けてみんなと離れてなんかっていう感じのこととか，あと夜がちょっと寝れなくなったりとか．そこの少年院の中の診療所の処方薬を，例えば寝れないときに薬くれたりとか，おなか痛かったら薬くれる．その先生に「安定剤飲んだほうがいい」って言われて飲みだしたんですけど，最初 1 週間，2 週間はすごい眠くて，日課にも出れんくて，ちょっと嫌やなと思って安定剤をやめてもらって．安定剤飲んだらすごい逆にいらいらする感じが私はあって，ちょっとやめたんですけど，やめたときはちょっと眠くもないし，いらいらもしないからいいなと思ってたんですけど，やっぱ 2，3 カ月たったら安定剤がなかったら駄目ってことに気付いて．

18 までは安定剤とか飲むことほとんどなかったし，眠るときに眠剤を飲むこともなかったし，18 歳のときは，少年院に入ってる間はずっと毎日薬の夢見てて，薬をして楽しい夢ではないけど，薬を自分で使った後の快感とかがすごい寝てる間によみがえってきてっていうのがすごいあって，そこで依存症やなっていうのは気付いてて，周りからもけっこうやばいみたいな感じで言われてて．そこから関西に帰らんと四国の少年院行ってるときに，出るときに九州に行って，そのときもまだ薬をやめることを考えてなくて，すぐに九州のほうで最初施設に入ったんで，刑務所とか少年院から出てきた子が行く保護施設みたいな所があるんですけど，そこに行って．そこでも多分 3 カ月以内に再使用して，ばれないように使って．でも通報され，ばれて逃げて 1 カ月，2 カ月ぐらい最初は抜きに出たんですけど，薬を抜きに行ったんですけど，また売人のところに行ったから毎日薬を打ってて．それを見かねた知人に，その人，九州の人なんですけど四国にも家持ってて，そのときたまたま四国におったから四国に薬抜きに来いって呼んでくれて，そこで抜いてから，私そのときも保護観察付いてたんで保護観察所行ったりとか，その施設，元いてた施設に戻るんかみたいな話になって，私はもう戻る気がなかったから「もう戻りたくない」つって．

まじ言い訳なんやけど，施設おったらストレスたまるから，また使ってまうからといって，結局出て使おうと思ってたからそういうこと言ってたんですけど．保護観察所の担当もそういうのも分かってて，今まで多分けっこう分かってて見逃してもらってたことって，すごい自分の場合は多くて．それが一昨年の 5 月に施設出て，その 2 カ月後には，保護観察が切れるから，自分の中でも自由って思ってて，でもその 2 か月も使うの我慢できなくて使って，そのときには 2 週間に 1 回の検査が月 1 回になってたから，その日の前後はもう…（中略）…薬使ってましたね．それで 7 月になって保護観察が切れてから，今回逮捕されるまでの間，だから半年ちょっとぐらいずっと薬使ってて．違法薬物とかの怖いところは，やっぱり三大欲求を超えちゃうんです．睡眠欲とか，食欲とか，あ

となんや，睡眠欲，食欲，性欲か．多分みんなあると思うんですけど，ご飯食べたいとか，眠いとか．そういうご飯も食べんでもよくなるし，眠くもなくなる．

その代わり，やっぱ代償は大きくて，例えば違法薬物で私ここ来とる，高知ダルクにつながったけど，違法薬物は今やってないけど処方薬とか，例えばちっちゃいときだったら眠るのに薬なんか要らんかったし，毎日，自立準備ホーム通うのに，朝起きてすぐに安定剤とか飲むこともなかったし．私の場合はちょっと違法薬物をけっこうな量をやってたんで，例えば歯医者に行ったときに麻酔が効きにくくなったりとか，あと市販薬の痛み止めやったらちょっと効かない．そういうときに，どっか体が痛いなって感じたときに，また薬が欲しくなったりとか．取りあえず体と心ってすごいつながってて．こういうの聞いて最初はどういうことか全く分からんかったけど，体の調子が悪かったらメンタルもやばいし，メンタルやばいときは体が動かんみたいな感じで，そういうのをすごく感じるようになって．違法薬物は今，止まってても，処方薬，例えば病院で診てもらわなあかんのは月 1 回，診てもらったりとか，健康はちょっとほど遠いところかなって自分では思ってて．私はけっこう今も高知ダルクつながって 2 カ月ぐらいで，違法薬物は 4 カ月ぐらい，まだ 4 カ月なんですけど，いまだに要求すごくて．違法薬物の話ししただけで，すごい体がうずいたりとか，また使いたいなとか．今，違法薬物を使ってたら，そのときに使ってたその記憶ってすごい強烈で，違法薬物を使って体がすごい気持ち良くなったっていうのもあるけど，そのときに誰といてたかとか，そういう，何をしてたかとか．違法薬物はやめるときに，すごい記憶が絡んでくるんで，においとか．誰々がああいう香水付けてたなとか．そういう似たようなにおいかいだら，ちょっと苦しくなったりとか，ほんまに引き金っていうんですけど．そういうのもすごい，人によって違うんですけど，種類とかも多分，天気でいったら，雨の日は薬がしたくなる人もおるし，ハッピーなとき，すごい自分幸せとか，彼氏とうまくいってるってときでも使いたくなる人はおるし，失恋したら使いたくなるっていうのもあるし，けっこういろんなところとつながってしんどいですね．

私も高知ダルクとつながって毎日夕方,入寮者で 1 時間ぐらいミーティングして話すんですけど，やっぱりみんないろいろ違って．アルコールとか，違法薬物とか，薬の種類は違っても，やっぱ生きづらさはみんな一緒で．多分今はネットとか，インスタとかですごいかわいく写っとるけ，あの子いいなとか，これ持ってていいなとか．私，最近インスタもう見てないからあれなんですけど，そういう生きづらさは多分，今の 10 代，20 代，30 代もネットが普及してすごいあると思うので，そういう生きづらさはみんな持ってるから，その生きづらさを持ちながら．私は生きづらさがあって違法薬物に走って，結局まだ私 20 代前半なんですけど，すごい諦め．諦めてはないけど，けっこう出遅れてるなっていうのがあって，きょうも校舎入ったときに学校行きたかったなとそういうのも思ったし，私は生きづらさがあって，最初は遊びから始めたのがもう中毒になってもうたから．

この間，テレビ見てたときに，なんのテレビか忘れたけど，東京の人らが高知の少年みたいな，小学 1 年生ぐらいの子に，ネット，最近見ててどういうのが印象に残ってる？って聞いたときに，トー横で市販薬でラリってるキッズみたいな感じで．見たことある？見ました？ありましたよね．それがあって，やばいなと．今はそういう変な知識とか，ネットで調べたら何でも出てくるから，小学 1，2 年生が市販薬でラリってるって，そういう…（中略）…ちょっとびっくりして．こういう薬物の怖さも，私もうまく伝えれんけど，薬物の話になったら興味も出ると思うし，やっぱ興味のほうが多分出るから，間違った話し方にならんかなって，きょうすごい不安で．興味持つためにしゃべってるんじゃなくて，こういう体が不調とか，あと今まで 10 代のときは風邪とかも全くひかんかったのに，すごい免疫力下がるんですよ．だから，薬使ってるときは免疫力下がるから，私も腸閉塞とか腹膜内膿瘍になって，四国の医大病院に入院ちょっとの間して，そういうのも全部薬物してて免疫力が下がってたからって言われたんですけど．何するにも健康が大事だと思うんで，健康

がなかったら，私も健康大事とかあんま思わんかったんですけど，体なかったらどこへも行けないんでって感じで終わります．

第 5 節　氏名不詳の方のスピーチ

こんにちは．すごい緊張しててうまく話せなかったらすみません．私が薬物に出会ったのは中学生とかだったかなと思います．祖父が世の中を知るためにパソコンを買ってくれたんですけど，そのパソコンを使って，その当時はまだ合法の薬物を自分で調べて，最初に使ったっていうのが一番最初の記憶です．そこから違法薬物に移行していって，当時高校生だったんですけど，高校の同級生と一緒に，私関西が出身なんですけど，この場所に行けば薬があるっていう有名な場所があって，そこに友達と一緒に行って．その後，小心者なんで度胸もなくて，一緒に人を巻き込んで使って，それが 17 歳ぐらいでした．そこで捕まって，両親が大阪の大学のほうに相談に行って，自分も当時，試験観察制度っていうのがあって，保護観察所に行きながら，いちおう執行猶予みたいな形で行ってきて，出てきました．ちょっと話すことを全然決めてなくてごめんなさい．そこで仲間っていうのに初めて出会って，その当時はやっぱり若かったし，家族もいて，お金もあったりとか，学校も行けてたりとかして．最初つながったときは，本当にここにいる人たちと自分は違うって，その当時，思ってました．こんなにどうにもならなくなってない，私はそこまで本当にひどくないって，本気で思ってたんですよね．なんですけど，全然一緒で．薬物を中心にいろんな物事が，自分の人生の決断っていうかが決まっていく．朝起きてまず考えるのは，どうやって薬物の段取りしようかなとか．どんどんお金もなくなっていって，両親にうそつかんなきゃいけない，お金を稼ぐために体を売らなきゃいけない．いけないってことはないんですけど，それしか自分にはその道がないような感覚っていうか，どんどん追い詰められていたかなって思います．

アディクションっていうのは本当に自分の意思とかは関係なく，自分はこうしたいって，そっちには行きたくないって思ってても，行動が全然違う行動をやっぱり取って．それを自分の中で正当化っていうか，そういうことをしてしまう病気だなって．捕まったときに，試験観察官に，自分は意志が弱いと思ってたんですよ．意志が弱いから薬を使うんだって思ってたんですけど，「あなたは逆ですよ」って．「めちゃめちゃ意志が強いです」って言われたのを今も思い出します．本当にどうしようもなくなった生活を話せば，本当に長くなってしまうくらい，精神科何回も入院したりとか，その精神科入院して，そこで解毒入院のために入院してるのに，売人の人の電話番号を持って退院するとか．売人と連絡が取れないために携帯を変えようっていって，変えますって言って，その変えた瞬間に売人に電話かけたりとか，本当に訳が分からない行動をやってました．

それでもやっぱ止まらなかったし，なんですけど，今は薬が，やまってます．13 年やめてて，それはなんでやまったのかなって思うんですけど，自分の力では本当にないっていうのだけは言えて，方向転換するでも，最初薬を持たないこと，近づかないこと，使わないことっていうのを本当に守れなかったんですけど，そういうことを仲間と一緒にやったりとか，地元を離れたりとか，本当に自分の思いどおりにはならないっていうことを受け入れる練習をしたりとか，正直に話すこと．使いたいなって思うことを，普通に今まで両親とか心配してくれる人とかに言っても，けっこう怒られる．心配してるからそれは当然やと思うんですけど，そんなことしちゃ駄目だよ．薬物，違法だから駄目だよって．分かってるけど，自分では納得が．分かっているよっていうそういう子どもじみた感情しか持てなかったんですけど，こういうダルクの中では，使いたいって言ったときに，そうだよねって，使いたいよねって．そういうことで自分の気持ちが楽になってたりとか．どこにいても，自分はここにいてはいけないんじゃないかなって思ってたのが，ここだったら自分はいてもいいのかなって思ったりとか，そういうふうに薬を使って失っていったものを，今も取り戻そうと，

ちゃんと自分の気持ちを感じることとか，嫌なことは嫌って言うとか，また，人の話もちゃんと聞くこととか．普通の人が多分普通にこう，この授業をちゃんと聞いていられるのもそうだと思うんですけど，そういうことを少しずつ取り戻していったのかなって思います．こういう機会を与えてもらって，こういう場所があるっていうことで，最初のきっかけはやっぱり痩せたいとか，そういうことから薬を始めたのが自分はきっかけだったんで，誰の身にも起こるじゃないですけど，そういうことがあったとしても，やり直しが利くかなっていうのを今は思います．ちょっとまとまりがないですけれども，聞いていただいてありがとうございました．

令和６年（2024）10月16日受理
令和６年（2024）12月31日発行